



2022 JR総連春闘勝利！ シリーズ⑪

ユニオン、要求わずかベア1,000円 それで組合員・家族の生活は守れるのか？ 労働組合は会社の顔色を伺ってはいけない！

今、いろいろな物の価格が値上がりしています。値下がりしているのは、労働者の賃金です。このコロナ禍で、多くの労働者が職を失い、生活に困窮しており自ら命を絶つ人が増えています。

JR東海はどうでしょうか？期末手当の安定的支給ベースは、会社の一方的な解釈で破棄をされ、現場社員は新型コロナウイルスに怯えながら業務に就き、馬車馬のようにこき使われ、賃金は大幅ダウンです。

今春闘では、組合員とその家族の生活を守るためには大幅なベアを会社に要求しなければならないはずですが、JR東海ユニオンは連合方針を大幅に下回るベア1,000円しか要求していません。本当に組合員の気持ちを把握しているのでしょうか？

JR連合政所事務局長は、JR連合第34回定期中央委員会で、統一ベア要求について「経営側からは『こんな時に気は確かか!?!』と言われるかもしれない…」と総括答弁を行っています（ACCESSNo.645-646）。おいおい、会社の顔色を伺って要求するのか？そんなことで、ベア1,000円満額勝ち取る自信があるのでしょうか？夏季手当は2.7ヶ月の要求ですが、これは会社が言っていた安定的支給ベースと同額です。これも満額勝ち取る自信があるのでしょうか？

過去の春闘結果を見ていると、春闘が始まる前から会社と事前打ち合わせがされ、結果ありきで春闘の交渉が行われていたようにしか思えません。組合員は、本当に結果に満足しているのでしょうか？自分が会社で出世したいとか偉くなりたいために、会社の顔色ばかり伺う組合役員をやっているのでしょうか？そうなれば、不幸になるのは組合員です。